



# ガンバルマンニュース

発行人：笠間しげじ 〒252-1123 綾瀬市早川 3211 TEL:70-2339 FAX:78-2348 E-mail:kasama@fine.ocn.ne.jp URL:http://shigeji.com/〈討議資料〉

## 平成23年 第1回県議会定例会のご報告

私は2月22日、平成23年第1回県議会定例会において、一般質問を行いました。議会での質問項目は、すべて綾瀬市民の皆様方から頂いたご意見が基となっています。

綾瀬市の県議会議員として、綾瀬市民の声を広く集め、そのご意見の中から県行政の取り組みで綾瀬市民に最も必要と思われるものを精査し、今回は8項目の質問を行いました。その中3項目抜粋してご紹介いたします。



### 県警察綾瀬合同庁舎における窓口業務について

綾瀬市には警察署がありません。私も県議会では米軍基地を抱える特殊な地域性も訴えながら、何度も要望を重ねました。

また、以前タウンヒルズで行われた綾瀬警察署新設署名運動にも参加させて頂きました。

しかし設置実現は厳しい状況です。当局からは人口割や、犯罪発生率で考えると、神奈川県内には綾瀬市より必要と思われる地域があるとの答弁が出されるばかりでした。



そこで私は警察署新設に変え、綾瀬市内にある4つの交番を連携させる大型交番設置を提唱しました。市内拠点交番として警察官を24時間常時配置し、綾瀬の治安維持にあたるというものです。

また併せて、免許証の更新等、警察署と同じような窓口業務を行い、実質的な警察署機能を持たせようと考えました。

この私の提唱は、平成21年に綾瀬市役所前の県警察綾瀬合同庁舎の運用開始で実現しました。

この合同庁舎は、県警察の県央地域の機動体制強化による治安維持を図る事を目的としていますが、併せて交番機能も兼ね備

えています。また警察署と同じような、窓口業務も行い住民サービスの充実を図っています。しかし警察署と比較するとまだまだ対応可能な手続きが十分とはいえません。

今回の質問では、更なる窓口業務の拡大や庁内の空きスペースの有効活用を積極的に推進すべきと質問しました。

**答弁** 今後も神奈川県は庁舎の運用に関して、綾瀬市民の利便性の更なる向上のため、検討を進めます。

### 私立幼稚園の預かり保育の充実について

経済情勢が好転しない中、厳しい家計を支えるため、夫婦共働き世帯が増え、待機児童は増加する一方です。これは綾瀬のような首都圏ベッドタウンで顕著な傾向です。

保育所の増改築も含め様々な対策を講じていますが、急増する保育ニーズには追いつかないのが実状です。

そこで私は「保育所」では0～2歳児の保育を中心に引き受け、3歳児以上は主に「幼稚園」が保育と教育を受け持つことが保育ニーズの対応に効果的と考えました。

正規の教育時間外にも園児を預けられる幼稚園へのニーズは高まっており、こうした取り組みである

「預かり保育」に対する支援を更に充実させることが、待機児童減少につながると、質問をしました。

**答弁** 神奈川県では来年度から預かり保育の補助制度に、新たに「待機児童対策加算」との補助枠を設定し、保育所に準じた保育時間までの預かり保育を拡充する幼稚園に対して、支援の充実を図る事としました。これにより、子どもの預け先として幼稚園を選択した場合でも、長時間保育のニーズに対応し、待機児童減少につながるものと期待しています。

## 県央地域における救急医療体制の立て直しについて

県央地域の二次医療圏（県央四市・厚木・愛甲郡）では医師や看護師の確保が厳しく、特に救急医療の輪番体制は危機的状況です。（輪番とは持ち回りで救急医療を行うことです。）

特に座間・綾瀬が共同で救急医療を実施するブロックでは、救急患者受入れ病院がわずか3病院に減少しています。

私は昨年4月に綾瀬市内で唯一、輪番体制に参加している、綾瀬厚生病院にて泊り込みの体験当直をさせていただきました。

急患のたびに起こされる夜間救急医療の激務を目の当たりにして、これでは救急輪番から撤退するのは当たり前ではないかと、衝撃を受けました。

当直医はわずかな睡眠時間で当直を終え、そのまま午前中の外来勤務に就かなければならない状態が続いています。また実際の現場では緊急入院が必要な患者がいる反面、残念ながら救急医療の必要の無いモラル欠如の患者が多く見られました。

この救急医療を支えているのは、中小の医療機関です。

特に民間病院では採算性だけを考えれば、救急医療から撤退するのも無理はないでしょう。

そこで私は今回の質問で、二次救急医療体制の整備は原則として市町村が荷うべき役割ですが、体制の再構築には、医療機関の地域的な偏りの解消も含めて、県主導による、総合的な整備を市町村と連携しながら進めるべきであると質問しました。

**答弁** 神奈川県では「神奈川県西部地域医療再生計画」によって、輪番参加の医療機関を増やし、またブロックを越えて、広域的に患者を受け入れる仕組みづくりに取り組んでいます。

具体的には新たに救急輪番に参加する病院向けに設備整備の支援や、小児救急患者を広域的に受け入れる病院に医師増員のための費用支援を開始しました。

今後症状の重い患者を、拠点的病院が受け入れることによって、輪番病院の負担軽減と一般患者の受入枠増加を図ります。併せて症状の重い患者を広く受け入れる病院に対して、施設・設備の整備費や運営費の支援を新たに開始します。

地域医療再生には、神奈川県と周辺の市町村、関係団体、地元病院と、しっかりとした連携協議が重要です。私は今後も綾瀬市の救急医療体制整備に力を注ぎます。



## その他の質問項目

- 家畜疾病予防対策について
- (仮称) 綾瀬インターチェンジの早期整備について
- 小中学校における職業観を育成するための教育について
- 部活動の推進について
- 横断歩道等交通安全対策の促進について

すべての質問と答弁の詳細は「笠間しげじ」公式ホームページでご覧になれます。

<http://shigeji.com/>

ホームページ内の「県政報告」をクリックしてください。